

## ■ユーザカスタマイズ留意事項 (2018.11.26 時点)

本資料は、日レセバージョン 5.1.0 での仕様変更により、ユーザ作成プログラム等で問題が発生しないようお知らせするものです。

### 1 Ubuntu18.04 ディストリビューションによる変更について

1-1 主なパッケージのバージョンは以下となります。

- ・ PostgreSQL 10.5
- ・ Ruby 2.5.1 ※Ubuntu16.04 は 2.3 のため両バージョンで動作確認

1-2 削除されたパッケージは以下となります。

- ・ pdftk  
代替として qpdf を使用します。  
日レセバージョン 5.1.0 では qpdf のコマンドを使用します。
- ・ libpng12  
代替は libpng となります。

### 2 ミドルウェアの変更について

2-1 主な変更点は以下となります。

- ・ BLOB の UUID 化
- ・ **dbms コマンド廃止**
- ・ dbmaster、dbslave、dblog コマンド廃止
- ・ XMLIO. so 廃止
- ・ XMLIO2. so の XMLOPEN の無効化

2-2 BLOB の UUID 化

BLOB データの入出力時のキー (blobid) として uint32\_t の連番を利用していましたが、これを UUID に変更しました。

影響があるコマンドは以下となります。

- ・ monblob
- ・ monupload

アプリケーションの対応は以下となります。

(1) 画面定義体、DB 定義体に対応する COPY 句の修正

BLOBID の uint32\_t から UUID への変更の対応は libmondai の object 型の実体定義を変更することで行ないます。

```
uint32_t -> char id[36]
```

そのため画面定義体及び DB 定義体で object 型を使用している場合はそのまま構いません。

ただし COPY 句については object 型の実体が変わっているため変更が必要です。

object -> PIC X(8) (5.0)  
object -> PIC X(36) (5.1)

## (2) blobid を保存していた場合の対応

monblob テーブルのスキーマについては変更はないため、5.0 で作成したデータはそのまま保持されています。

ただし DB ライブラリが変更されており、BLOB にアクセスするためには UUID が必要となります。

monblob テーブルから blobid に対応する UUID(id) を検索するなどの操作が必要となります。

## (3) monblob コマンドを利用しているスクリプトの見直し

同様に UUID での指定となります。

### 2-3 dbs コマンド廃止

周辺システムから dbs によりデータベースへアクセスしていた場合は動作しません。別の方法 (API 等) に変更が必要です。

### 2-4 XMLIO.so 廃止

日レセ 4.8 用の古い API で利用していた XMLIO.so を廃止しました。

### 2-5 XMLIO2.so の XMLOPEN の無効化

日レセ 5.0 では XML 読み込み時に以下の動作にしていたが、

XMLOPEN ... ここで BLOBID を設定

XMLREAD ... 内容読み込み

日レセ 5.1 からは XMLOPEN は何もしないファンクションとなるため

XMLOPEN ... なにもしない

XMLREAD ... ここで BLOBID と内容を読み込み

という動作にします。既存のコードで XMLOPEN と XMLREAD の間で DB 領域の BLOBID の項目をクリア等していると XMLREAD で誤った BLOBID を参照して動作しなくなります。

また既存のコードで XMLOPEN と XMLCLOSE を使用している場合 (XMLWRITE でも) は極力削除する (いきなり XMLWRITE と XMLREAD を呼ぶ) ようにしてください。

XMLOPEN と XMLCLOSE ではミドルウェア内部で何も処理しないのですが、MONFUC 実行時点で DB 領域の COBOL<->C 言語のデータ変換が実行されてしまい無駄な処理時間となります。

## 3 マスター分離について

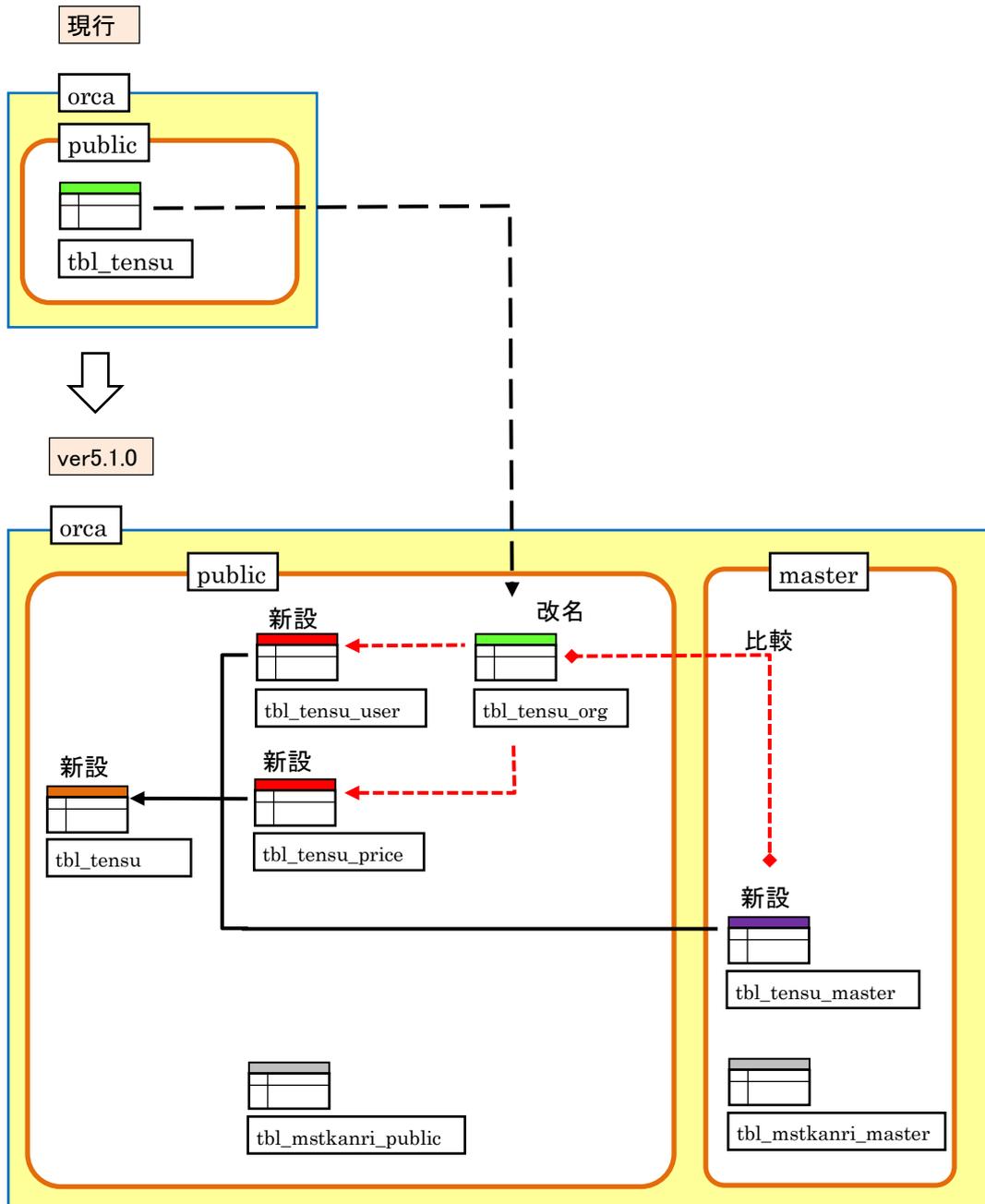
ver5.0.0 ではマスタ系のテーブルを格納するスキーマ (master) を新設し、ユーザーがメンテナンスできないものを移動しました。

ver5.1.0 では業務画面からメンテナンスできる点数、一般老人置換 (医薬品経過措置関係)、チェック、保険者、住所の 5 つのテーブルを移動しました。

public スキーマには今までと同様のテーブル名で view (ビュー) を作成しています。

3-1 点数テーブル

(1) 構造変更処理により点数テーブルは下図のように変更します。



 ビュー

 データ移行処理 (ユーザーが変更したデータを移行)

 テーブル (データ移行処理後に削除)

 テーブル (標準提供マスター、グループ診療の場合は各医療機関識別番号分)

名前	種類	説明
tbl_tensu_org	テーブル	現行の tbl_tensu を改名して一時保存する。 データ移行処理にて削除する。
tbl_tensu_master	テーブル	標準提供マスターテーブルである。 ユーザーは更新できない。 グループ診療の場合は、医療機関識別番号 (HOSPNUM) 分のレコードを収容する。
tbl_tensu_user	テーブル	標準提供マスターから診療行為コード単位で複写してユーザーが管理する。 マスタ更新処理対象外である。
tbl_tensu_price	テーブル	特定器材マスタの一部マスタについて金額を登録する。 マスタ更新処理対象外である。
tbl_tensu	ビュー	tbl_tensu_user、tbl_tensu_price、tbl_tensu_master の3テーブルを結合し、現行の tbl_tensu に見立てる。 tbl_tensu_user と tbl_tensu_master に同一診療行為コードが存在する場合は tbl_tensu_user のレコードを優先する。

(2) 点数金額テーブル (tbl\_tensu\_price) の結合について  
酸素マスタ (739230000) を例として説明します。

点数テーブル (標準提供)

コード	開始日	終了日	金額
739230000	00000000	20140331	2.25
739230000	20140401	99999999	2.31

点数金額テーブル

コード	開始日	終了日	金額
739230000	20130401	20140331	2.15
739230000	20140401	20160331	2.16
739230000	20160401	99999999	2.14



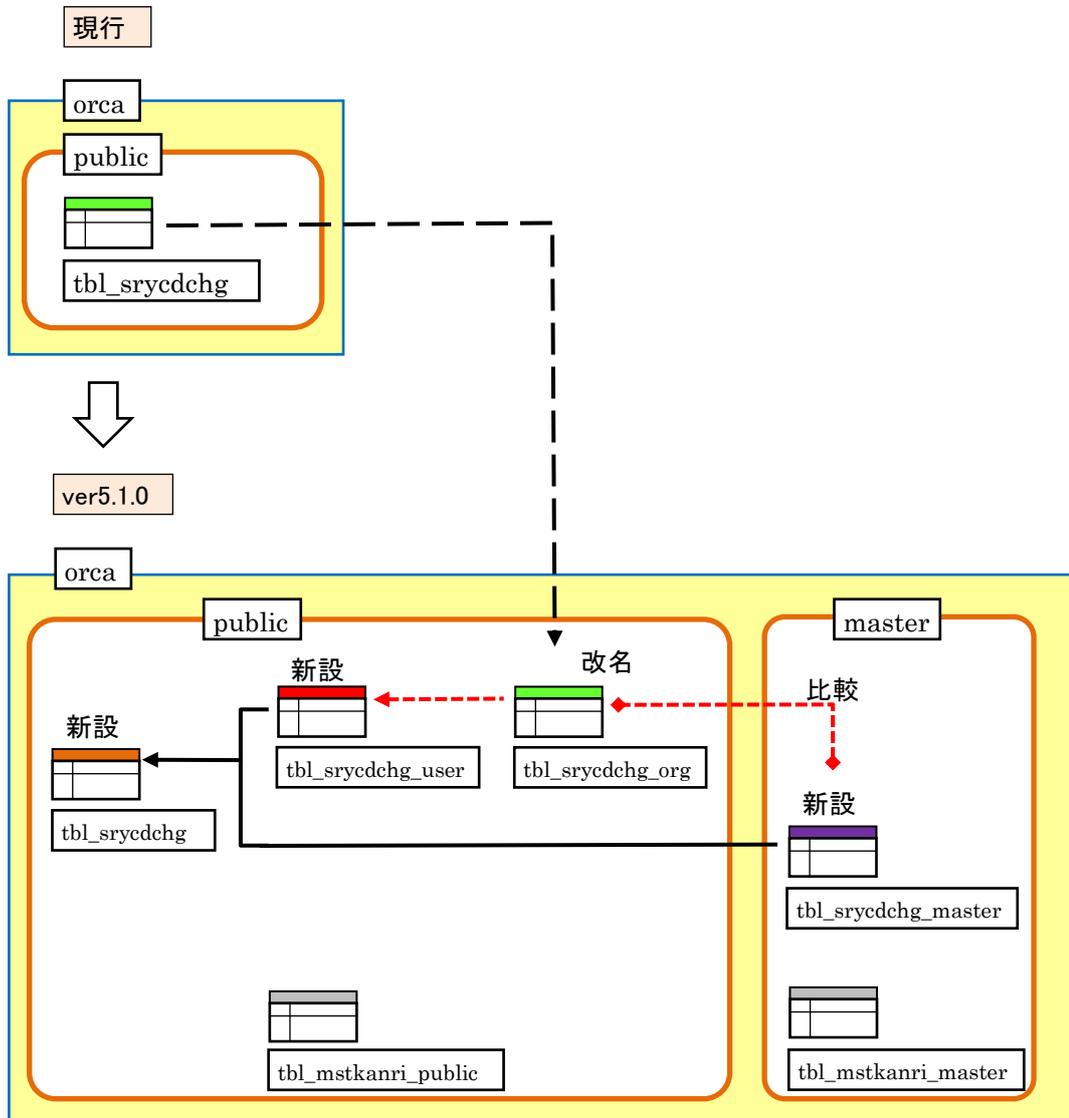
点数テーブル (ビュー)

コード	開始日	終了日	金額
739230000	00000000	20130331	2.25
739230000	20130401	20140331	2.15
739230000	20140401	20160331	2.16
739230000	20160401	99999999	2.14

点数金額を設定する場合は、有効期間が途切れないようにする必要があります。

3-2 一般老人置換テーブル

(1) 構造変更処理により一般老人置換テーブルは下図のように変更します。



 ビュー

 データ移行処理 (ユーザーが変更したデータを移行)

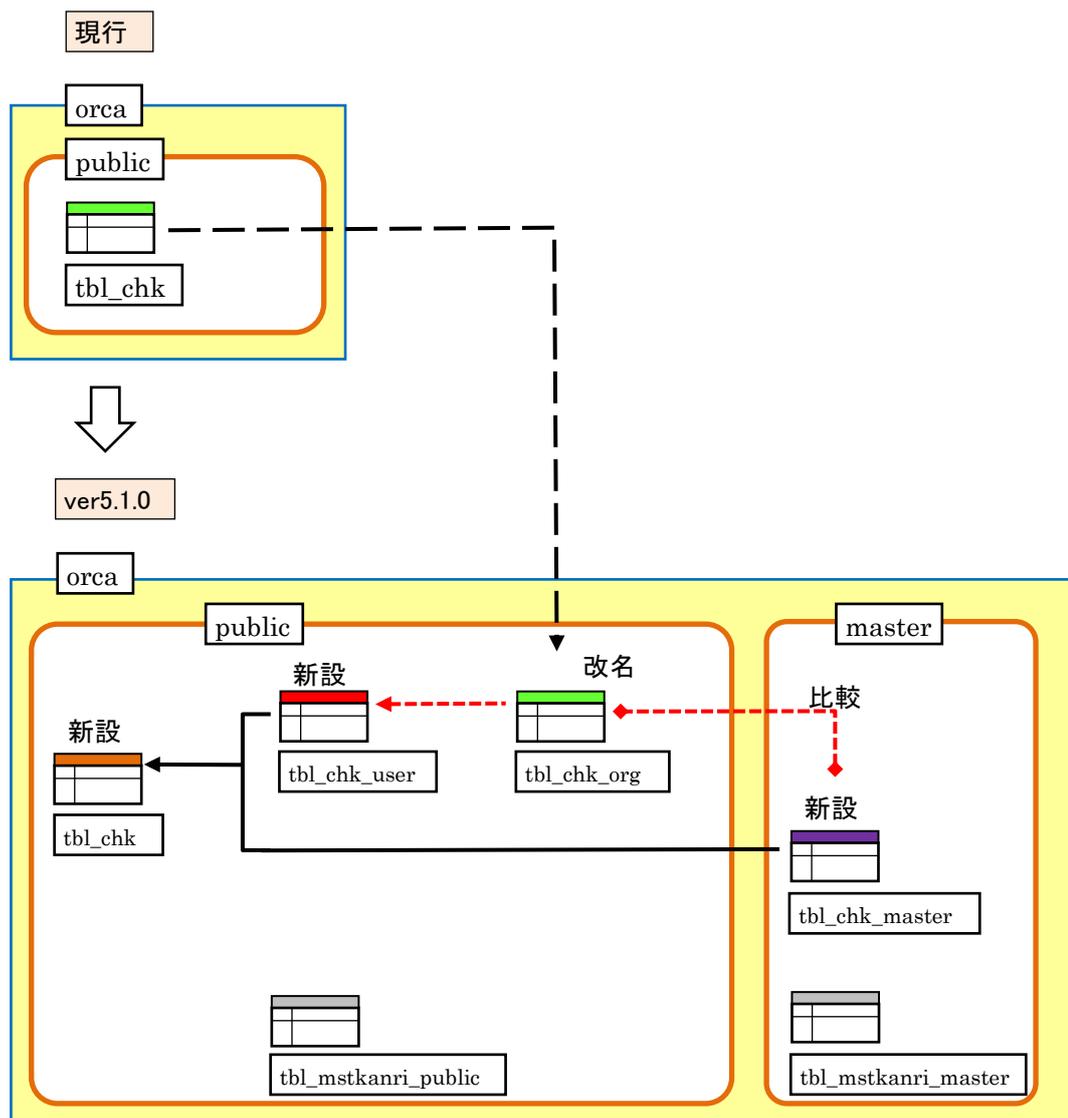
 テーブル (データ移行処理後に削除)

 テーブル (標準提供マスター、グループ診療の場合は各医療機関識別番号分)

名前	種類	説明
tbl_srycdchg_org	テーブル	現行の tbl_srycdchg を改名して一時保存する。 データ移行処理にて削除する。
tbl_srycdchg_master	テーブル	標準提供マスターテーブルである。 ユーザーは更新できない。 グループ診療の場合は、医療機関識別番号 (HOSPNUM) 分のレコードを収容する。
tbl_srycdchg_user	テーブル	ユーザーにより登録されたレコードを格納する。 マスタ更新処理対象外である。
tbl_srycdchg	ビュー	tbl_srycdchg_user と tbl_srycdchg_master を結合し、現行の tbl_srycdchg に見立てる。 同一レコードは tbl_srycdchg_user を優先する。

### 3-3 チェックテーブル

(1) 構造変更処理によりチェックテーブルは下図のように変更します。





ビュー

←----- データ移行処理（ユーザーが変更したデータを移行）



テーブル（データ移行処理後に削除）

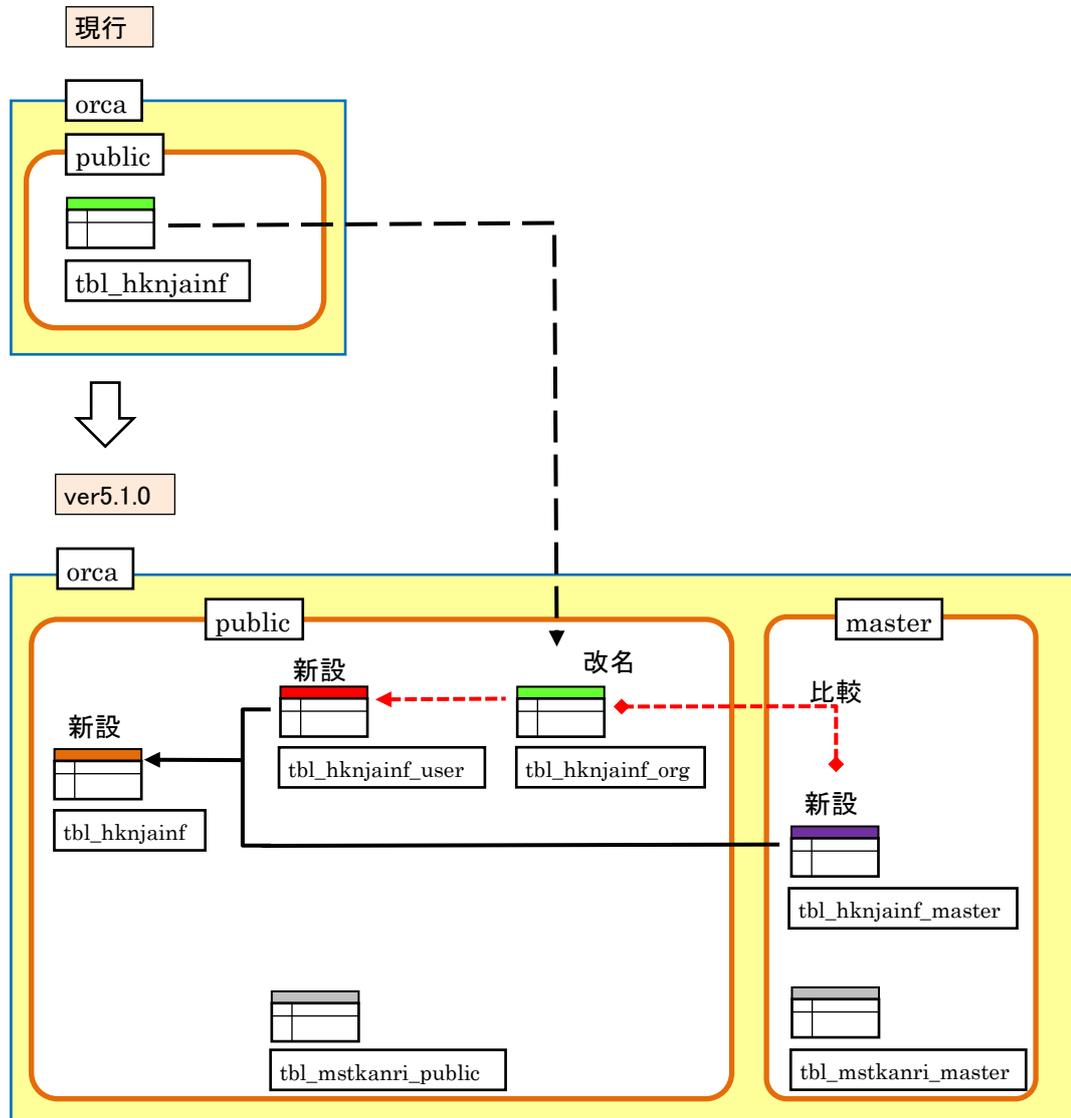


テーブル（標準提供マスター、グループ診療の場合は各医療機関識別番号分）

名前	種類	説明
tbl_chk_org	テーブル	現行の tbl_chk を改名して一時保存する。 データ移行処理にて削除する。
tbl_chk_master	テーブル	標準提供マスターテーブルである。 ユーザーは更新できない。 グループ診療の場合は、医療機関識別番号 (HOSPNUM) 分のレコードを収容する。 データ区分 (DATAKBN) が 1 のレコードのみ存在する。
tbl_chk_user	テーブル	ユーザーにより登録されたレコードを格納する。 データ区分 (DATAKBN) が 2 のレコードのみ存在する。 マスタ更新処理対象外である。
tbl_chk	ビュー	tbl_chk_user と tbl_chk_master を結合し、現行の tbl_chk に見立てる。 同一レコードは tbl_chk_user を優先する。

3-4 保険者テーブル

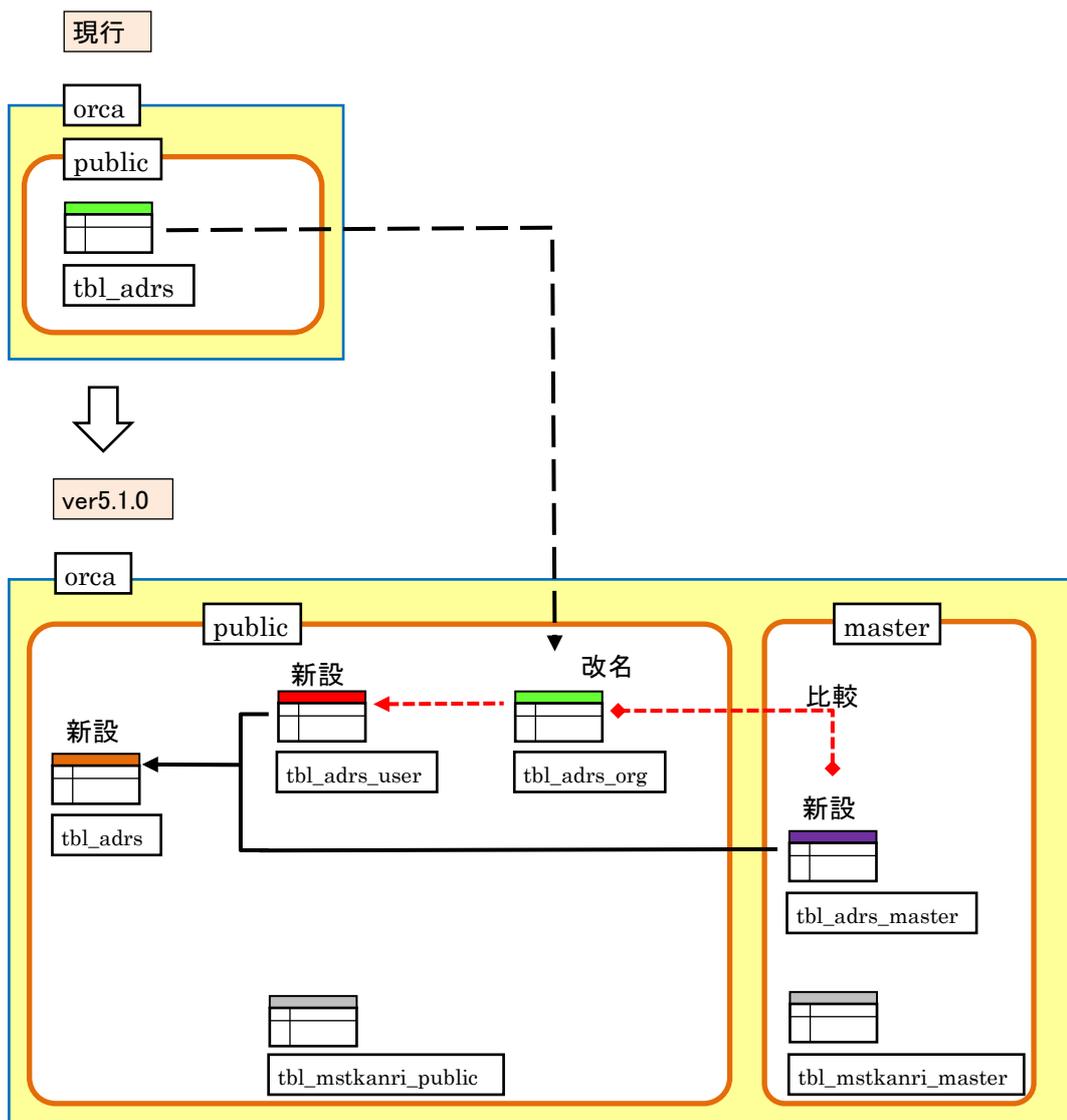
(1) 構造変更処理により保険者テーブルは下図のように変更します。



名前	種類	説明
tbl_hknjainf_org	テーブル	現行の tbl_hknjainf を改名して一時保存する。 データ移行処理にて削除する。
tbl_hknjainf_master	テーブル	標準提供マスターテーブルである。 ユーザーは更新できない。 グループ診療の場合は、医療機関識別番号 (HOSPNUM) 分のレコードを収容する。
tbl_hknjainf_user	テーブル	ユーザーにより登録されたレコードを格納する。 マスタ更新処理対象外である。
tbl_hknjainf	ビュー	tbl_hknjainf_user と tbl_hknjainf_master を結合し、現行の tbl_hknjainf に見立てる。 同一レコードは tbl_hknjainf_user を優先する。

### 3-5 住所テーブル

(1) 構造変更処理により住所テーブルは下図のように変更します。





ビュー

←----- データ移行処理（ユーザーが変更したデータを移行）



テーブル（データ移行処理後に削除）



テーブル（標準提供マスター、グループ診療の場合は各医療機関識別番号分）

名前	種類	説明
tbl_adrs_org	テーブル	現行の tbl_adrs を改名して一時保存する。 データ移行処理にて削除する。
tbl_adrs_master	テーブル	標準提供マスターテーブルである。 ユーザーは更新できない。 グループ診療の場合は、医療機関識別番号 (HOSPNUM) 分のレコードを収容する。
tbl_adrs_user	テーブル	ユーザーにより登録されたレコードを格納する。 マスタ更新処理対象外である。
tbl_adrs	ビュー	tbl_adrs_user と tbl_adrs_master を結合し、現行の tbl_adrs に見立てる。 同一レコードは tbl_adrs_user を優先する。

## 4 テーブルアクセス方法変更について

### 4-1 点数付加テーブルのアクセス方法変更

点数付加テーブル（TBL\_TENSUPLUS）の主キーは、点数テーブルと同一であり、点数テーブルの主キーに合わせてレコードを作成する必要がありました。これにより、マスタ更新処理等で点数マスタの有効期間に変更が生じた場合は、点数付加テーブルも有効期間を区切って作成しています。

ver5.1.0からは、非同期でも問題ないとするように変更しました。

これにより、点数付加テーブルを参照する場合に有効期間を条件とする場合は、指定する日付を見直す必要があります。

#### 5.0.0まで

診療行為コード 111000110 初診			
点数		点数付加	
開始日	終了日	開始日	終了日
平成 26 年 4 月 1 日	平成 28 年 3 月 31 日	平成 26 年 4 月 1 日	平成 28 年 3 月 31 日
平成 28 年 4 月 1 日	平成 30 年 3 月 31 日	平成 28 年 4 月 1 日	平成 30 年 3 月 31 日
平成 30 年 4 月 1 日	99999999	平成 30 年 4 月 1 日	99999999

※点数付加レコードは有効期間が違うだけで他の項目はすべて同じであるとする。

## 5.1.0 から

診療行為コード 111000110 初診			
点数		点数付加	
開始日	終了日	開始日	終了日
平成 26 年 4 月 1 日	平成 28 年 3 月 31 日	平成 26 年 4 月 1 日	99999999
平成 28 年 4 月 1 日	平成 30 年 3 月 31 日		
平成 30 年 4 月 1 日	99999999		

## 4-1-1 プログラムの変更

(1) COBOL プログラム内で“tbl\_tensuplus”の文字列を含むソースファイルをすべて確認します。

“tbl\_tensuplus”の箇所から有効期間の条件指定をしている場合は修正対象となります。

(2) ソースプログラムの変更内容です。

例えば、点数テーブルの有効期間を点数付加テーブルの抽出条件として有効期間に指定している場合は、診療日など実際に参照すべき有効期間のレコードが参照できるよう指定する日付を変更します。

```

MOVE    SPACE                TO    TENSUPPLUS-REC
INITIALIZE                TENSUPPLUS-REC
MOVE    TNS-SRYCD            TO    TNSP-SRYCD
-       MOVE    TNS-YUKOSTYMD TO    TNSP-YUKOSTYMD
-       MOVE    TNS-YUKOEDYMD TO    TNSP-YUKOEDYMD
+       MOVE    SPA-SRYYMD    TO    TNSP-YUKOSTYMD
+       MOVE    SPA-SRYYMD    TO    TNSP-YUKOEDYMD
*
MOVE    SPA-HOSPNUM          TO    TNSP-HOSPNUM
MOVE    TENSUPPLUS-REC      TO    MCPDATA-REC

```